

令和5年9月22日（金）（R5第24号）

明日は秋分の日。来週には涼しくなるといいですね。

さて、6年生の農山村留学の2日目。朝6時半に起床。よく眠れたらしく、多くの児童は元気に活動していました。

清掃、朝食を済ませ、午前中のプログラムであるウォークラリーが始まりました。コマ図と呼ばれる地図を頼りに、鴨川青少年の家近くの展望台を通過して、また青少年の家に戻ってくるというものです。

危険箇所や間違えやすい場所には職員が立ち、声掛けや見守りを行いました。また、熱中症が心配だったので、「塩分補給の飴」とペットボトルを子どもたちに持たせた以外にも、職員は多量の水やお茶を用意しました。

これで万全と思いましたが、コマ図を読み間違えたのか全く違う方向に行ってしまうグループがあったり、虫に刺されてしまう子がいたりとなかなか大変でした。虫に刺され痛い思いをさせたしまった子、ごめんなさい。

午後は、協力して船をこぐカッター訓練でしたが、台風が近づいているため中止となってしまいました。鴨川ならではの体験なので、中止は残念でした。その代わりに、子どもたちは近くの海岸で磯遊びをし、その後は大きなホールでゲームをして楽しみました。

夜は、キャンドルサービス。私も『火の長』として参加しました。一緒にセレモニーを行った4人の『火の子』がよく頑張りました。「やさしさの火」「友情の火」「感謝の火」「挑戦の火」と4人が発する声が体育館中に響き渡りました。

セレモニーの後はダンスやゲーム。係りの子を中心に、大いに盛り上がりました。キャンドルサービスの最後にみんなで歌った かりゆし 58 の『オワりはじまり』が心に染みしました。6年生の子どもたちにとって、仲間と過ごした2泊3日の農山村留学をこの歌詞にあるように「かけがえのない時間を胸に刻み込んで」ほしいと思います。

3日目は帰校する日なので、朝から荷物の整理、シーツなどの返却、ベットの整頓など忙しく過ごしました。

なんとか荷物の整理も終わり、最後のプログラムは『房州うちわ作り』です。3人の房州うちわの名人が鴨川青少年の家に来所し、指導してくれました。名人の話に耳を傾け、一生懸命にうちわ作りに取り組みました。素敵な作品が完成し、子どもたちにとって良いお土産となったことでしょう。

帰りのバスの中では、DVD鑑賞でしたが、爆睡している子が多かったようです。私は、荷物運搬のため自家用車での参加だったため、なかなか辛い帰路でした。(もちろん事故なく戻りました。)

先ほども書きましたが、この3日間は子どもたちにとってかけがえのない時間になったことでしょう。これからの6年生の活躍が楽しみです。